インフルエンザウイルス感染症「注意報」発令中

コロナとインフル豆知識

最近の感染症に関する傾向として昨年、一昨年と大きく異なるのが新型コロナウイルスと季節性インフルエンザウイルスの同時流行です。

それぞれの症状は見分けがつきづらく新型コロナのオミクロン株の新たな亜種が道内で確認されるなど、不安は高まるところですが コロナもインフルも基本的な予防対策は同じで備えや理解を深めて、落ち着いた日常を過ごしましょう。

千歳保健所管内のインフルエンザ流行の状況 12月下旬［流行入り］・1月26日に［注意報］

【道内のインフルエンザ流行状況】

期間	12/12～18	12/19～25	12/26～1/1	1/2～8	1/9～15	1/16～22
千歳管内	0.25	1.13	3.88	5.63	7.25	11.63
増減	↗	↗	↗	↗	↗	↗

※1/16～22は速報値。

《インフルエンザ》は、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症のことで、一般のかぜ症候群とは分けて考えるべき「重くなりやすい疾患」です。日本では11月下旬から12月上旬に始まり、1月から3月ごろにピークを迎えることから《季節性インフルエンザ》と呼ばれています。

流行の基準は、コロナウイルスの「全数把握」とは異なり、1週間における定点医療機関の平均報告数で、1人以上が『流行期入り』、10人以上で『注意報』、30人以上で『警報』となります。

1月26日に、千歳保健所管内の週報（1月16日～22日）で11・63が記録され、北海道は『注意報』を発しました。コロナとあわせて、より強い注意が求められています。

基本行動・重症化に注意することは同じです

コロナには、味覚・嗅覚の異変などインフルとは異なる特徴的な症状がありますが、初期症状では、見分けがつきづらいといわれています。

しかし、感染対策は「人混みを避ける」や「手指消毒」などの基本行動、重症化リスクに注意することは同じです。

最近では、薬局やインターネットで、両方のセルフチェックができる《一般用同時検査キット》が市販されていますが、インフルエンザは、発症後早期のウイルス量が少なく《偽陰性》になる可能性が高いことから、重症化リスクの高い方や小学生以下の子どもが発熱などの感冒症状を生じたとき、重症化リスクが低い方でも症状が重いときは、検査キットの結果に頼らず、医療機関などを受診することが大切です。（次ページの図参照）

「重症化リスク」をご存じですか？

次の方は重症化リスクが高いと考えられます。当てはまらない方も、知人や交流のある方に感染させてしまうリスクについて理解しましょう。

- □ 65歳以上である
- □ 喫煙歴がある
- □ 肥満（BMI30以上）
- □ 脳血管疾患と診断されている
- □ 高血圧と診断されている
- □ がんと診断されている
- □ 免疫機能の低下の可能性があると診断されている（※）
- □ 妊娠している
- □ 慢性呼吸器疾患（COPDなど）と診断されている
- □ 糖尿病と診断されている
- □ 脂質異常症と診断されている
- □ 慢性腎臓病と診断されている
- □ 心血管疾患と診断されている

※ 臓器移植、免疫抑制剤、抗がん剤使用などで免疫機能の低下の可能性があると医師から診断されている方。

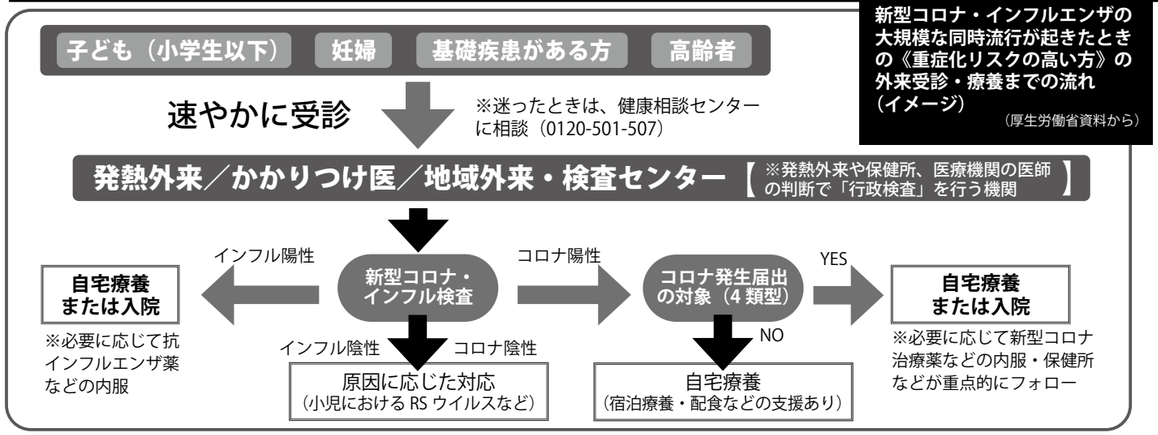
厚生労働省資料「withコロナにおいて健康をまもるためにできること」より抜粋。

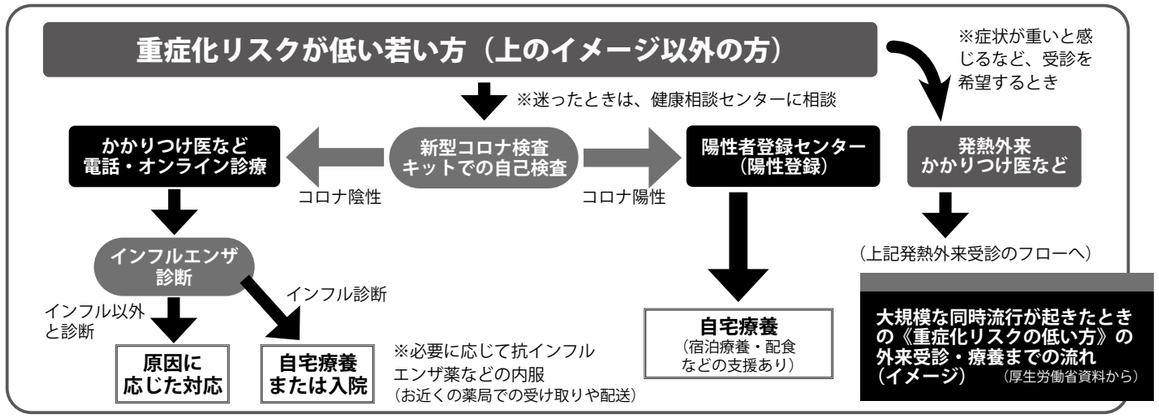
日ごろから免疫力アップを！

- □ 適切な食生活を
- □ 適度な運動を
- □ 十分な睡眠を
- □ 禁煙しよう
- □ お酒と上手につきあおう

詳細は国の健康手帳をご覧ください。

新型コロナ・インフルエンザの大規模な同時流行が起きたときの《重症化リスクの高い方》の外来受診・療養までの流れ（イメージ）（厚生労働省資料から）





大規模な同時流行が起きたときの《重症化リスクの低い方》の外来受診・療養までの流れ（イメージ）（厚生労働省資料から）

コロナとインフルは同類？ 法律上の取扱

現在、国では、新型コロナウイルス感染症の法律上の取扱を、3か月程度の準備期間をおいた上で《2類相当》から《5類》とする方向を示しています。

位置づけの変更によって、患者・濃厚接触者の外出自粛は見直しされ、医療の提供体制、公費の支援などは、段階的に移行。ワクチン接種は、接種の在り方について検討を進めることになっています。

また、5類になった以降の基本的な感染対策についても、今後示される予定です。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

3年という慌ただしい月日が流れて、コロナという未知のウイルスへの対処は、《ウィズ・コロナ》という対応へと、本格的に移行する時期に差しかかっています。

以前のくらしや社会活動が少しずつ元に戻っていく中で、私たちは、改めてコロナに向き合い、国や北海道の動向を意識しながら、インフルエンザウイルスと同様に、感染しないこと、そしてリスクがある方が感染しないように気をつけることが大切です。

コロナとインフルの比較

	コロナ初期段階（病原性などが不明）	コロナの現在（病原性などが一定程度判明）	（参考）季節性インフルエンザ（5類）
●感染者の全数把握	○ 患者情報などを詳細に全例届出	△ 様式を大幅に簡素化し、届出は4類型に限定	△ 定点観測など
●積極的疫学調査	○ 詳細な疫学調査を全例実施	△ 高齢者施設などに限定	△ 高齢者施設など必要に応じて実施
●入院措置・勧告	○ すべての患者	△ 高齢者などに限定	×（法律上適用できない）
●患者・濃厚接触者の行動制限	○ すべての患者・濃厚接触者最大14日間	△ 患者は最大7日（有症状）、濃厚接触者は家庭内などに限定し、最大5日間	×（患者の自主的な対応などへ）
●在宅療養者への健康観察など	○ 在宅療養者に対して保健所などから直接電話などで連絡	△ 対象を重点化し、ICTも活用して対応	×（法律上適用できない）
●水際措置（検疫）	○ 入国時検査、施設での隔離	△ ほとんどの水際措置を緩和	×（法律上適用できない）
●ワクチン・治療薬の開発状況	―	○	○

感染症法上の主な措置の変遷

1月20日付の国の厚生科学審議会（感染症部会）資料参考

国の審議会の詳細な資料などは、厚生労働省のホームページから閲覧できます。